

# 寄付のご案内

子ども・若者の一歩を支えるためにご寄付・ご支援をお願いいたします。

## 1 申し込みフォームで寄付をする（銀行振込） >>>>>>>>>>

右記のフォームから申し込みをお願いします。  
振込先口座をメールでご案内いたします。



## 2 Webサイトから寄付をする（銀行振込・クレジットカード） >>>>

右記のサイトから寄付を受け付けています。



### 今年度寄付を活用して実現した取り組み

不登校、生活困窮世帯の子どもたちが安心して通える居場所づくりを行いました。



#### 居場所の運営

子どもたちが「ただいま」と帰ってきて、子どもらしく過ごせる居場所を専門職と大学生のボランティアで運営しました。



#### 食事の提供

手作り夕食を週3日提供しました。次第に子どもたちが食べるごはんの量が増えたり、「いっしょにごはんを食べたい」と夕食を食べる子どもが増えたりしました。



#### 保護者の支援

保護者の方々と一緒に子どものことを考え、学校、行政、関係機関とチームをつくり、連携して支援に繋がりました。



#### 子どもたちと出会うための場づくり

子どもが気軽に立ち寄れる「駄菓子屋」を運営し、孤立した子どもと出会う場、地域のさまざまな人が立ち寄り、子どもたちを支えることができる場を作っています。



#### 学びと体験の機会づくり

ギターを弾いたりクッキーを作るなど、興味を持ったこと、自分のやりたいことを調べたり、挑戦しました。キャンプやお祭りなど見る、聞く、さわる、感じるなど五感を通して体験し、仲間と支え合う機会を提供しました。

### み・らいず2は「認定NPO法人」の取得を目指しています

「認定NPO法人」とは、公益性が高く、一定の基準を満たしたNPO法人に与えられる認定です。

この認定を取得することで、活動が社会より信頼され、より多くの賛同者や支援者を集めやすくなります。また、寄付者の皆様は税制優遇措置（寄付金控除）を受けることができ、より支援しやすくなります。

認定NPO法人を取得する要件の一つである、一口3,000円の寄付を年間で100人以上から集めることを目指しています。

不登校や引きこもり、障がい、生活困窮など、さまざまな背景を持つ子どもたちに対して、

継続的で多様な支援をこれから先も届けていくために、お力添えをお願いいたします。



NPO法人み・らいず2

〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋4-4-19

TEL: 050-5840-3113 (法人本部)

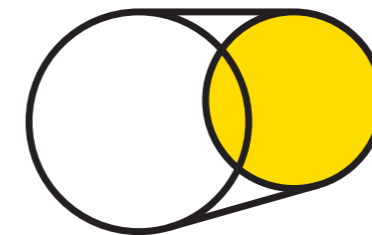
WEB: <https://me-rise.com>

み・らいず2は、「だれもが自分らしく地域で暮らすことができる社会」を目指して障がいのある人、発達障がいや不登校の子ども、高校生、ニート・引きこもりの若者など、支援が必要な方々に対する事業を行なっている団体です。大学生がボランティアとして約150名活動しています。

# ANNUAL REPORT 2023

NPO法人み・らいず2 2023年度活動報告書

未来の  
声なき声に  
耳をかたむけ続ける



み・らいず  
ME-RISE

# 「だれもが自分らしく地域で暮らせる社会」が当たり前な未来をめざして

—— 第2号アニュアルレポート発行にあたり ——

2023年は、社会活動が再開された年となりました。

み・らいず2でも、花見やキャンプなど、さまざまな経験を提供するイベントを本格的に再開させました。

しかし、困難を抱えた子どもたちや若者は、十分なサポートを受けられない状態が続いています。

そして十分な支援や経験のないまま成長すれば、働き手としても社会に参加することが難しくなり、ますます労働力の不足が進んでいくことでしょう。

加速する労働不足に対応するために、み・らいず2は以下の支援に取り組んでいます。

不登校児や引きこもり状態にある若者に対しては、相談と居場所、経験の機会、選択の機会の提供を。

生活困窮や虐待のある家庭の子ども、発達障がいに対しては

相談や様々なことを経験する機会の提供を。

発達障がいやその他の特性のある働く意欲のある若者に対しては、就労トレーニングの提供を。

み・らいず2での出会いや経験を通して、子どもや若者の未来が明るいものになれば、

これ以上の喜びはありません。

みなさま、ぜひご一読いただき、今後も力強いご支援とご寄付をお待ちしております。

代表理事 河内 崇典



## 未来の 声なき声に 耳をかたむけ続ける

私たちがしてきたこと、この先も挑み続けることは、時代の先に行く福祉サービスの創造でも単なる事業の運営でもありません。

出会う人々すべてと全力で向き合い、話を聞き、言葉にならない思いを想像しながら相手の幸せを一心に願う、その積み重ね。

たとえ、仕組みや制度の壁があったとしてもそれでも何かできるはず、もっと他にできることはないか、と立ち止まらずに考え続けるのが基本です。

その時代、時代の地域の課題や一人ひとりが抱える困りごとを見つめて、必要な支援を届け、なければ、つくり続ける。

み・らいず2が目指すのは、「だれもが、自分らしく地域で暮らせる社会」がどんな人にとっても当たり前の未来です。

### 日々に大切な、6つの支援



私たちの考える、人生を豊かにする6つの支援

み・らいず2では、人と人が地域社会で一緒に暮らしていくために必要な支援を、「遊ぶ」「暮らす」「育む」「学ぶ」「働く」「描く」という6つの視点からとらえて活動を行っています。

未就学期にはそれぞれの子どもの育ちを、保護者と一緒に受け止めながら、豊かな育ちの基礎を支えます。

児童期には「10歳」をポイントに置きながら、子どもの自我の芽生えや、「自分でやりたい、できる、できた!」等の意欲と行動を学びとる力をつけ、人と遊ぶことや自分の好きな遊びを楽しむ力を支えます。

思春期には「自分」を家族と切り離して考え始めたり、様々な葛藤と向き合い、少しずつ将来のことや自分の「暮らし」について考えはじめることを支えます。

高校卒業後は、働くことで社会を構成する1人の若者となり、誰かを支える立場になっていくための学びと経験を支え、働きながら自分らしく暮らす姿と一緒に描きつつ支えます。

2022年度も、それぞれの事業でみんながそれぞれの一步をふみだすことができました。1年1年、今しかない時間を大切にしていきたいと思えます。

# み・らいず2が取り組む社会課題

だれもが、自分らしく地域で暮らせる社会を実現するためには、幼少期からの経験と主体的な選択が重要と考えます。私たちは、子ども・若者の経験不足を引き起こすさまざまな課題に取り組み、だれもが役割を持って参加できる社会を目指します。



社会課題

社会課題

## 働き手不足と若年無業者の増加

リクルートワークス研究所の発表では、2040年には1,100万人の労働力が不足すると予測されています。一方で、2023年の若年無業者数は59万人と、前年より2万人増加しました(統計局労働力調査より)。「働きたい」のに働けない人がいる一方で、労働力が不足するという現状があります。

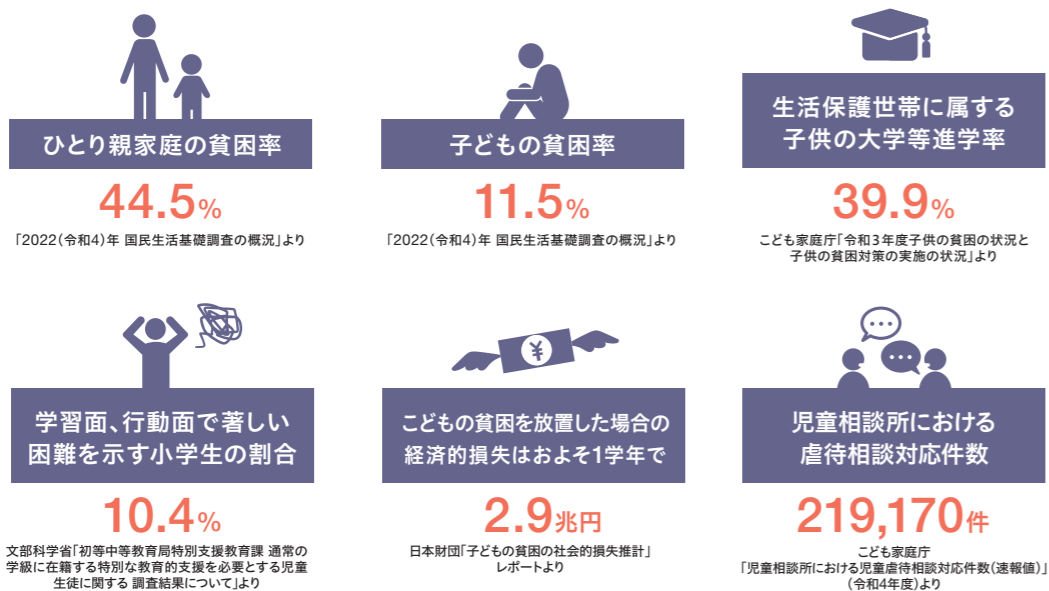


## 働くことを諦めなくていい社会

現在、私たちの周囲には「働きたいけど働けない」「自分には働くことが無理だ」「社会に必要とされていない」と感じ、「働くこと」を諦めてしまう若者がたくさんいます。「働く」とは、役割を持って他者と関わり、社会に参加することです。その形は一つではなく、多様な働き方が存在します。多くの人が働ける社会を実現するためには、対症的な対応だけでなく、早期から支援を行うことが大切です。こうした支援を通じて、「働きづらさ」を感じる若者が少しでも希望を持てるよう、取り組んでいきます。

## 不登校の背景にある要因

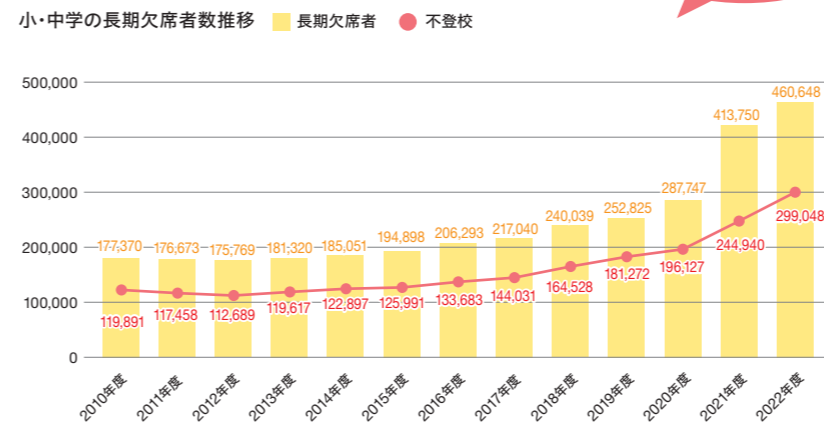
不登校の背景には、生活困窮や発達障がい、虐待などさまざまな要因が絡んでいます。例えば、生活困窮により家庭の生活リズムが不安定になること、クラスメイトや教師とうまく関われない、集団活動になじめないなど、発達障がいや知的障がいに対する理解や適切な環境が不足していることも、不登校につながる要因です。こうした状況は、家族関係にも影響を与え、場合によっては虐待につながるケースもあります。



## 児童期に必要な経験と自分で選び、決める機会の不足

私たちに寄せられる相談には、「学校に行けない」「学校に行けなかった」といった声が多く含まれています。児童期に家族以外の関わりが少なく、「外」に出る経験が不足していると、自分に自信を持ちにくくなり、「自分には無理だ」と感じてしまうことが多いのです。

文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題」



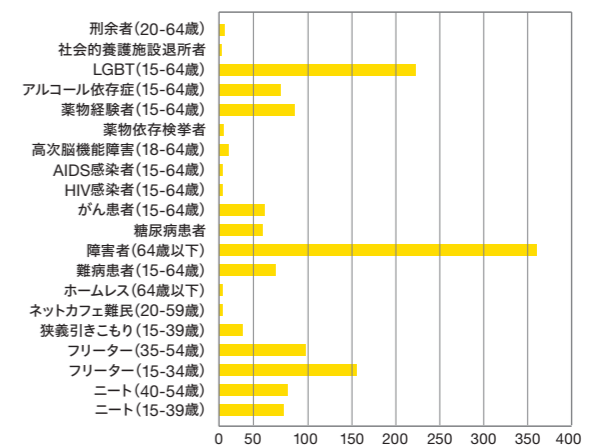
不登校の人数が過去最多に

## 働きづらさを抱える人たち

こうした経験が不足したまま安定した就労をすることが難しい現状があります。ひきこもりやニート、ミッシングワーカーなど「働きたいけど働けない」「働きづらさ」や「生きづらさ」を感じている人は、のべ1,500万人にのぼります。

## 就労困難者 のべ1,500万人

就労困難者数の内訳 日本財団「就労困難者に関する調査研究」より



# み・らいず2の取り組み

のべ**28,702**名の  
利用者に支援を届けました


み・らいず2の考える  
課題解決の方法

## 子ども・若者の一歩を支える

「不登校」ではなく、それにより様々な学びの機会が少なくなることが課題だと考えています。再登校だけを目指すのではなく、個々が納得して次のステップに進めることを大切にしています。

課題


課題1 相談できない



### 多様な相談窓口がある

- ・自分も相談していいんだと思える
- ・周りを気にせず相談できる入口がある
- ・多様な専門職に話ができる


課題2 居場所がない



### 安心して通える場所がある

- ・「話してよかった」「わかってもらえた」と感じられる
- ・良好な人間関係がある
- ・生活リズムが整うと社会参加しやすくなる

課題3 経験の機会がない



### 学びと体験をつくる

- ・学習の遅れの不安が解消される
- ・「わかった」「できた」を実感する
- ・チャレンジする機会がある

課題4 選択の機会がない



### 進路選択の力をつける

- ・自分を知る
- ・多様な選択肢がある
- ・進路を決めるための相談ができる



#### ・総合支援法の活用

知的障がいや発達障がいのこどもたちへの相談支援事業を行いました。

#### ・委託事業の活用

不登校やひきこもりの方、働きづらいの方のための相談、困窮世帯への訪問相談を行いました。

#### ・多様な入り口

駄菓子屋や、中学校内居場所など、こどもと直接出会える機会づくりや、地域の「見守り事業」や協議会としての他機関との連携をはかるなど、多様な機会と方法で困りごとをキャッチできるよう取り組みました。

- 不登校・ひきこもりの若者 **1,873**名
- 働くことに悩みをかかえる若者 **1,600**名
- 障がい児者相談支援 **91**名 のべ**315**回



#### ・委託事業の活用

大阪市、堺市から委託を受け不登校状態にあるこども、生活困窮世帯にあるこどもの居場所づくり、学習支援等を行いました。

#### ・自主事業での居場所づくり

制度にあてはまらない場合でも使えるように、助成金や寄付金などを活用した居場所づくりを行いました。

#### ■生活困窮世帯のこどもへの学習と居場所づくり支援事業

**145**名 のべ**1,864**回

#### ■不登校・生活困窮世帯のこどもの居場所

**86**名 のべ**3,842**回



#### ・障がいのあるこどもへの療育

こどもたちが「人と関わる力」「自分で決める力」を身につけるためのプログラムと実践の場(イベント)の提供を行いました。

#### ・学びづらさのあるこどもへの学習支援

不登校のこども、発達障がいのこども、生活困窮世帯など様々なこどもに向けた学習支援を行いました。塾代助成を活用して、経済的に困難な家庭のこどもも通うことができる学習塾を立ち上げました。

#### ■不登校・発達障がいのこどもへのSST

**184**名 のべ**6,829**回

#### ■不登校・発達障がいのこどもへ学習支援

**75**名 のべ**300**回

#### ■障がいのあるこどもへの外出トレーニング

**42**名 のべ**1,940**回

#### ■障がいのある人への外出・生活支援

**294**名 のべ**4,472**回



#### ・進路相談

本人や保護者と、進学や就職に向けて必要な力や経験について考えました。

#### ・就職予備校

障がいのある若者に向けて、3年間の働く力を身につけるトレーニング、就職活動のサポートを行いました。

#### ・グレーゾーンの学生の就職相談

就活がうまくいかない大学生や専門学生に向けて職業適性検査や就活相談、セミナー等を実施しました。

#### ■グレーゾーンの大学生の就職相談

**93**名 のべ**110**回

#### ■障がいのある若者の就職支援

**40**名 のべ**7,722**回

2023年度の活動実績

# “だれもが暮らせる地域へ” 様々な「粹」を超えて共に良い体験をつくる

み・らいず2の全利用者ご家族、職員を対象にしたイベントで、設立当初から開催されています。  
コロナ禍で一時休止していましたが、2022年度に復活しました！  
どれも100名を超える参加があり、1年を通しての楽しみとなっています。

## お花見

利用者と大学生ヘルパーやボランティアが桜の木の下でのんびりと過ごします。中には医療ケアの必要な子どもたちと一緒にこられたり、ボランティアの卒業生が遊びに来ることもあります。



## キャンプ

夏休みに行われ、オリエンテーリングや飯盒炊飯、キャンプファイヤー、スイカ割りなど、夏ならではのアクティビティをみんなで楽しめます。



## 釣り

岬町にある淡輪ヨットハーバーでの貸し切りイベント。普段なかなか経験できない釣りを楽しみ、釣った魚はその場で唐揚げに。ご家族、きょうだいも参加されています。



## クリスマス会

地域の学校体育館を借り、大道芸人のパフォーマンスや工作、人形劇など、みんなで楽しめるクリスマスにふさわしい企画が満載です。



## 大阪マラソン

2018年から毎年、大阪マラソンのチャリティ寄付先選ばれています。支援者や職員など延べ160名のランナーが寄付集めに協力しており、集まった寄付は住之江区の子どもの居場所づくりに活用されています。



## 文化祭

毎年秋に開催される、み・らいずワークス主催のイベント。み・らいずワークスの生徒が日々の活動や就職活動の取り組みを発表し、保護者や友人、利用者、一般の参加者などが100名以上が訪れます。



# 大学生とともに — 多様な人材を社会へ —

271名の大学生が のべ2,603回 活動しました

み・らいず2では多くの大学生が支援の現場で活躍しています。  
地域の課題を知り、多様性を実感し、社会課題に対して自分で考えて動く経験をした学生を社会に送り出しています。

## ガイドヘルパー養成講座

7回開催 のべ114名が受講

知的・精神障がい児者の外出するための支援について、講義や参加型ワークを通して学び、資格を取得する講座です。



## ボランティア説明会/研修会

207名が申込み

ボランティアを希望する大学生へ活動の案内や相談を行っています。また、不登校や発達障がい、貧困など社会課題の背景や子どもとの関わり方、基本的なマナーなどボランティアに参加するための基礎的な知識を伝えています。



## ソーシャルカレッジ

のべ401名がイベント・活動等に参加

大学生が社会課題を知るきっかけになる「ソーシャルボランティア」、社会課題に関わるための「ソーシャルプロジェクト」「ソーシャルバイト」、ボランティア活動での経験を活かし、社会課題解決に関わる企業と出会う「ソーシャルリクルート」などを実施しました。



## 福祉教育

27校 3,127名に授業を実施

(大阪府、大阪市の小・中・高等学校)  
多様性を知り、認め合うことの大切さを伝えるワークショップや対話、福祉を身近に感じるための大学生による授業などを実施しました。



# 利用者の声

## 不登校・発達障がいのある子どもへのSSTクラス 利用者(小5) 保護者

保育園の頃から、園への行き渋りがあり、小学校に入ってからは「行きたくない」と毎日泣き、3年生のときに全く学校に行けなくなったことをきっかけに、放課後等デイサービスの利用を考え始めました。

4年生から週2回のペースでみ・らいずスクールに通い出してから少しずつ学校に行ける日が増え、4年生の終わりごろには「一人で学校に行く」と言うようになりました。5年生の林間学校でもみんなと一緒に過ごすことができました。

ソーシャルスキルトレーニングのプログラムを通して「こういう時どうしたらいいか」ということがわかってきたようで、家でも学んだことを話しています。伝え方がわかってきたことで、お友だちとの会話にも抵抗がなくなってきたのかなと思います。

今も学校に行けない日もありますが、言葉で気持ちを伝えられるようになり、泣いて黙ってしまうことも減りました。学校の先生からも、み・らいずスクールに通ってすごく成長したと言ってもらえました。表情も明るくなり、活動意欲も高まってきたように思います。



## 子どもの居場所 利用者(中3)

居場所に来るようになって自分が変わった。まずは、知っている人や関わる人がふえた。

ここに来るまでは、知っている人が家族とほか少しくらいだったけど、ここでいろんな人と話すようになった。新しい人にもたくさん会うようになって、まだまだ全然人見知りかもしれないけど、自分の中ではだいぶ話せるようになった。声も大きくなった。ここは仕事の話や将来の話もできるのがいいと思ってる。



# 学生の声

「何かしたい」と思っていたとき、授業でみ・らいずの話聞き、「楽しそうだしやってみよう」と軽い気持ちでボランティアを始めました。子どもたち一人ひとりの「居場所」を作るために多くの話し合いを重ねました。性格や背景が異なる子どもたちが集まる中で、どうすればみんなが安心できる空間を作れるか、自分がどう関わるべきか悩むこともありましたが、しかし、「難しい」と終わらせず、居場所のスタッフみんなで相談し合い、解決策を見つけて取り組むことができました。3年間のボランティア活動を通じて、子どもたちの成長を間近で感じることができ、これが最大のやりがいでした。卒業後は福祉法人で働き、共生社会の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。  
大阪市立大学生活科学部人間福祉学科 4回生

